

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191401033		
法人名	株式会社のべる手		
事業所名	小規模多機能ホームのべる手		
所在地	函館市中道2丁目26番29号		
自己評価作成日	R8年4月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	運営推進会議
所在地	
訪問調査日	令和8年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ががなるべく在宅で暮らせるようにサービスを入れている。ご家族が急な外出、泊りで利用希望された際もすぐに調整し、利用者様個人に合わせた対応を行っている。また給食センターと連携してバランスの良い食事を提供している。利用者様やご家族が安心できるような最期を迎えられるように、らしさを大事に過ごしていただけるよう笑顔絶やさず真心、思いやり、ぬくもりを持ってサポートを行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・一人一人が快適に過ごすことが出来るよう配慮がいきとどいている。
・利用者、家族が安心して預けられる様な施設であるように思う。
・利用者のニーズや希望に合わせたサービスの工夫、また楽しみを持てるようイベントや催しも提供、地域とも連携し、地域に根ざした事業所となるように取り組んでいる。
・利用者の体調に変化がある場合はすぐ連絡して頂き、その後の処置等について最善の策を示してもらえるのが有難い。
・職員の方の対応が親身になって頂いてるのが感じられ、事業所の質の高さを今後も維持して頂きたい。
・のべる手を利用してから表情がどんどん良くなり、のべる手を利用して良かったと感じている。
・職員の皆さん明るく、親切で対応も早く、安心して利用をお願いできます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない			○	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関への掲示は引き続き行っている。毎日の朝礼での唱和を実施し、その理念を共有し実践するよう努力し継続して行っている。	掲示し職員への意識付けを行い、実施できていると評価する。 掲示物があるのは知っていましたが読んだことはありませんでした。	実施できるよう努力を続けてください。 継続、実施していくことが重要。 今度ゆっくり掲示物に目を通して読んでみます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も町内会の花壇の整備やお祭りに参加したり、七夕の時には町会、病院、地域の企業と連携しスタンプラリーで各所に地域の子供たちが向かい、地域住民や利用者との交流の場を設けることができた。	町会や地域のイベントにも積極的に参加できしており、実施できていると評価する。 毎月の広報誌で情報発信できている。 曜日や天候に関わらず実施されている。	今後も積極的に参加、交流してください。 継続実施を望む。 子供達とふれあえる行事があればいいと思う。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	くるみCafé(認知症Cafe)に参加をしている。 SNSやホームページ広報誌等にて行事や日常の様子を地域の方に発信している。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内にて対面での運営推進会議を開催。 事業所内の様子を見て頂き、意見交換の場を設けることができた。			会議では写真付き資料を添付頂き分かりやすく工夫しており実施できていると評価する。 事業所の様子が見られるので良かったです。 紙面にて読んでいます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故発生時には、市への報告を行い対応や考え方等の助言を貰っている。感染症についての注意喚起の通知等を貰っている。	報連相を意識的にやり連携できていると評価する。 市との協力関係が伺える。 地域包括支援センターや病院の地域連携室と連携していると思います。	管轄担当課と密に連携とって行って下さい。 たくさんの人にのべる手をもっと知ってもらえるよう地域の人に紹介してほしい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの不法侵入者を防ぐ為に玄関の鍵を施錠しているが安全を確保するためでもある。 身体拘束防止委員会の設置、委員会を2か月に1回定期的に開催。また虐待の芽チェックシートを個人でチェックし委員会委員会で検討を行い、身体拘束の有無確認や予防策を検討。R7.6月に法人研修と現任研修を全職員で実施している。(年2回)	研修や介護の見直しを行い、虐待の視点を持つことが出来ており、実施できていると評価する。	今後も法改正に伴い、随時研修会など開催して行って下さい。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を2か月に1回開催し虐待の有無や事例報告、虐待防止策の検討を行っている。利用者様の入浴や排泄の際に異変がないか確認を行い、情報共有ツールを用いて、職員で情報共有を行っている。R7.6月に資料閲覧研修を全職員で実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	R8.2月に資料閲覧研修を実施。該当する利用者様が成年後見制度を活用できるように包括と情報共有し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の見学、体験利用を行い事業所内の雰囲気を見て頂き、ご家族やご本人にとって必要な支援の説明を行い相違のないように務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。送迎時や訪問時、連絡帳で利用者様、ご家族からの意見があった場合には迅速に対応している。また、月に一度利用者様、ご家族にモニタリングを実施し意見、要望等を受け職員で共有、解決し、さらにより良いケアにつなげている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は2か月に1回の職員会議や、職員の意見や提案を聞く機会を設け、業務改善に努めている。また、日頃からコミュニケーションを図り、職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	日頃よりコミュニケーションをとり意識聴取しており実施できていると評価する。 職員といい関係作りが出来ていると思った。 明るく親しみやすく、信頼できる方々です。	今後も意見が反映できるようにしていった下さい。 人は宝。 これからも親しみやすい関係で家族を守ってほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得に向けた支援や給与水準の見直し、働きやすい環境作り、個々の意向を重視した環境作りに努めており、不要な業務は削減した。また残業時には前もって声掛けを行っている。福利厚生にも積極的に力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護や看護のスキルアップのためWEBセミナーや外部研修などの周知を行い、法人外の研修を受ける機会を提供している。また人事考課を年に2回行い、職員一人一人の資質を理解し能力の向上を図る取組を提案している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内の居宅介護支援事業所や通所介護、小規模多機能型居宅介護のサテライト事業所と常に連絡・相談を行い、情報の共有、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には生活状況やご要望を丁寧に聞き取り、その情報を把握した上で、不安なことや羞恥心などにも配慮し、不安そうであれば、こちらから声をかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際は、ご家族の不安や要望の聞き取りも行い、個々に合ったサービスを提供できるよう努めている。施設見学を行ったり体験利用して頂き、不安を最小限に出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急な場合にも可能な限り柔軟な対応を行い対応している。場合によっては地域包括支援センターや他事業所へのサービスへ繋げる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の人生・生活を尊重した関わりが出来るように、スタッフ間での情報共有に心掛けている。また利用者様の残存能力を活かし、プラチナヘルパーなどの取り組みも実施している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡帳の活用や電話連絡、送迎時にご家族とのコミュニケーションを図り利用者様の日々の生活状況や変化を把握し支援している。出来るだけ自宅で過ごせる環境作りとして福祉用具貸与やケアの方法を指導したり事業所での様子を知らせている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物同行の際は馴染みのお店に買い物に行ったり、馴染みのかかりつけ医への通院同行支援も行い、本人の要望を聞きながら行い、実現出来るように支援を行っている。	本人の希望を聞きながら関係維持するために支援しており実施できていると評価する。買い物、通院への同行は良い支援だと思えます。送迎をいつもお願いし助かっています。	今後も本人や家族より聴取、アセスメント行ない、支援継続してください。 送迎だけでなく、数か月に1回でも同行し医師からの話を一緒に聞いてもらえると助かります。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の利用者様に合わせテーブルや席の配置を変えたり、利用者様同士の会話や様子に耳を傾け必要時にはスタッフが共通の会話を投げかける等、利用者様同士の交流が図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様との電話相談や直接お話を聞き支援に対応している。。契約終了となったご家族からの電話相談にも対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を導入し、利用者様の意向の聴き取りを随時行っている。重度化により本人の意向が掴めない時は、発症前の生活の様子を再アセスメントしたり、ご家族から本人の意向を伺っている。	支援前後の本人の気持ちを聴きながら評価し、逐一支援見直しをお願いします。担当制を実施し意向の把握に努めている。	本人から聞いていることがあれば家族に教えてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の利用者様やご家族とのかかわりの中で聞き取りした情報は、スタッフ間で共有しケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕に申し送りを行い、利用者様の状態に合わせて支援内容を検討し日誌を作成し支援できるように努めている。また申し送り以外でもノートに記載し、職員間での情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、看護職員、介護スタッフ、ご家族や関係者で連携しケアプランを作成している。利用者の心身に変化が現れた際には、ご家族や関係者等と話し合い、計画の見直しをしている。	専門職で意見交換し、提供できており、実施できていると評価する。利用者、家族、関係者の連携がよく取れていると思う。ケアプランを作成して頂きありがたいです。歩行が困難になってきたので相談し、福祉用具のレンタルも開始となり迅速な対応ありがとうございます。	今後多職種で話し合いながら実施していった下さい。今後歩行がどのように変化するのか教えてほしい。また、屋内と屋外では歩行に違いがあるので知りたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者、ご家族のご要望に最大限応じるために柔軟な対応を行っており、突然の食事提供の変更や訪問時間の変更、体調変化による宿泊への変更や、緊急訪問など可能な限り対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族のご要望に最大限応じるために柔軟な対応を行っており、突然の食事提供の変更や訪問時間の変更、体調変化による宿泊への変更や、緊急訪問など可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある商店などとの関係が途切れないように支援し、地域の中でも孤立せずに安心して暮らし続けることができるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医にて対応している。要望に応じ送迎や受診同行を行い、適切な医療を受けられる様支援している。	良い支援を行なっていると思う。	今後も相談しながら継続
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚トラブルや体調の変化など、気づいたことは常勤看護師と情報共有し、利用者様の健康状態を管理している。また、必要時には受診や適切な処置が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院側の医師や看護師、リハビリ職員から基本動作能力や食形態などの情報収集を行い、事業所での支援に繋げる努力をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	R7.10月に看取り介護についての現任研修を全職員に対し実施し、終末期のあり方について、職員間で意見交換を行った。また看取り介護のマニュアル、看取り介護の指針の整備を行った。	看取り、終末期対応もあり、検討の機会となった。それに応じて整備も出来ており、実施できていると評価する。 退院後どうしたらいいのかわからないが今は安心してお世話になっている。	今後もケース対応等通じてスキルアップしていった下さい。 研修の一層の充実を望みたい。 いつか終末期になったときのことを考えるが、できれば慣れてきたのべる手で最期まで生活させたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。R7.6月に救命講習を行い職員がAEDの使い方を緊急時に迅速に対応できるように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	R7.7月に日中想定地震発生後の火災を想定し避難訓練、R7.8月にBCPの見直しを行った。R7.12月に夜間想定で火災の避難訓練を行った。	訓練と研修をしている事は会議で聞いている。紙面にて把握している。	全職員が対応できるよう今後も継続してください。 あらゆる災害に対しての準備と訓練を充実させたい。 のべる手からどのように避難するのか、したのかが家族がすぐに分かるようにGPSなどで分かるようになると思う。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議にて人格の尊重や誇りを損ねない言葉かけを職員間で話し合い、日常でも注意合っている。R8.1月に「プライバシー保護」の現任研修を行っている。。利用者一人一人の個々のプライバシー保護の配慮に努める。	良い取り組みが出来ていると思う。 注意しながら実施できている。	今後も継続してください。 最も大切なことなので研修の一層の充実を。 家族の事を話していることがあるみたいですが、これからも耳をかたむけていただきたい。 今の時代、プライバシーに関して世間がうるさいので皆さん大変だと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話から自己決定できる様、支援しているが、職員に気を遣い遠慮して声を掛けられない利用者様もいることが見受けられる。利用者様自ら発言行動できる雰囲気作りを行いたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様に合わせた支援を行っていけるように、職員間で情報の共有をし、同じ支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の活用、馴染みの美容室への外出同行。スキンケア用品の代行購入等を実施している。全職員は髭剃り、爪切り等のサービスを実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食の好みに合わせ代替品を提供したり、ご家族からの差し入れ等も提供している。季節感を味わえるような行事特別メニューの提供も行っている。日頃より盛りつけにも職員同士声掛けを行い、利用者様が食への意欲を持って頂けるよう支援している。	特別メニューの提供、日々の食事への工夫も見られ、よく支援できていると思う。 実際の食事は見ていないので量はわかりませんが、毎月のメニューを見るととても豪華だと思います。他施設の食事が質素だったのでメニュー表を見て、品数にびっくりしています。	今後も食の楽しみを継続できるよう支援をお願いします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事、水分を提供し、全利用者様の水分摂取量のチェックを行っている、健康状態や嗜好に合わせて摂取量を確保できるよう提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアやうがいを行っている。ご利用者様の要望に合わせ見守りや介助にて行っている。またご家族のご要望に合わせ歯間ブラシや舌ブラシ等を用いたケアも行っている。泊り利用の際は夜間に義歯の洗浄を行い清潔保持に努め、また必要な利用者様には定期的な歯科受診し歯科医師や衛生士と連携し支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとり排泄チェックを行い、その方にあった排泄のパターンを把握するよう努めている。トイレでの排泄が行えるように声掛けし誘導支援を行っている。	トイレでの排泄誘導支援が行なわれている。膀胱炎や便秘に対し、様子を教えて頂き助かっています。	個々の状態に合わせた支援を続けてください。これからも暖かいアドバイスしてください。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分量を確保し、乳製品を摂取して頂いたり、体操などの適度な運動を行い自然排便出来る様努めている。また自然排便が難しい方へは主治医へ相談し下剤や浣腸等で排便コントロールし快便に繋がる様支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	可能な限り希望に添える様に入浴回数など配慮している。入浴拒否のある利用者様にも声掛けの工夫等、気持ちよく入浴ができるように環境にも配慮しながら実施している。	色々な工夫が見られ、実施できている。帰宅に合わせて入浴日の変更を希望し対応してもらい、清潔保持ができ助かっています。	アセスメントしながら支援を継続してください。拒否することもあるため時間をおいて気分を変えてから再トライしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休息できる場所を確保し、体調等に合わせ休息を促している。また、レクなどで日中の活動量を増やし夜間安眠できる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のコピーを個別に管理している。また薬内容に変更があった場合も記録に落とし全スタッフで共有できるようにしている。薬包に日付と名前を記入し、ポケットカレンダーで管理し、服薬時も日付や名前の声出し確認や内服薬の飲み込みの確認をする等、誤薬、落薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク以外にも利用者様の残存能力に合わせ、新聞たたみ、チラシでゴミ箱作り、茶碗拭き、洗濯物干し等のお手伝いして頂き、役割を持てるようにしている。また個々に塗り絵やパズル等や他利用者との会話をする時間等を提供し、楽しみ事を行える時間を過ごして貰っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調、気分等を考慮し安全を確保した上で希望に添って、お花見や紅葉狩り等の外出行事も実施している。また、訪問時には買物同行の支援も行っており、身体能力の維持に努めている。	気分転換や生きがい作りのために工夫し支援できている。 広報誌で楽しんでいる様子を見ている。 外の空気に触れる事、体力維持に努めている。 まだ、外出行事に参加した事がないので楽しみです。	今後も四季が感じられるなどの楽しみが増えるよう支援していった下さい。 利用者の皆さんに屋外で目を向けるのは大変だと思います。数名ずつにグループに分けて、利用者と職員も楽しめたらいいと思う。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば支払い時の支援はしているが、出来るだけご自身で支払いが出来る様に声掛け、見守り程度にとどめ、認知機能の低下予防に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は御家族へ電話連絡を行い、直接話せる様に支援している。また、お正月等にはレクリエーションの一環で大切な人へ年賀はがきや暑中見舞いを書いて出すなどの支援も行い、ご家族から好評を頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の飾り物や制作物を掲示し季節感を感じられる様に配慮している。また、朝はコーヒーの香り、日中は音楽を流したり五感に刺激を与えるように工夫をしている。また定期的に、清掃・整理・整頓が出来て居るかの環境のチェックも行っている。	環境整備をして心地良く過ごせるように意識できている。 数回しか中に入ったことがありませんが、とてもきれいで明るい印象でした。	今後も心地良い空間の提供をお願いします。 快適な生活空間づくりに励んでほしい。 これからは家庭的な雰囲気を利用者の皆さんを楽しませてください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり座りたい、誰かとお話をしたい等、利用者様のご希望に添えるように、お席を適宜状況に合わせて変更している。また、リビングには、ゆっくりと過ごせるようにソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持参して頂き、居心地の良い空間を作れるように努めている。また、時には使い慣れたクッションや、タオルケット等もご持参いただき安心して過ごせるように配慮している。	工夫して実施できている。 家から持たせた服がバッグに入ったままになっていた。	今後も配慮し提供をお願いします。 個々の気持ちを一層大切に。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の心身の状況や自宅での生活に合わせた居室やベッドの向き、座席配置等の配慮を行い自立してトイレやフロアに来られるような環境作りに努めている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 小規模多機能ホームのべる手

作成日: 令和 8 年 5 月 5 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	35	地震発生後の火災・夜間の火災を想定した避難訓練やBCPの見直しを行っているが、地震発生後の避難経路を車椅子等実際に移送しながら行い、身に着けておく必要がある。	全職員に災害発生後の対応を周知し、有害時に対応を行える様にする。	BCPの訓練を充実させ、対応できる様にしていく。	6か月
2	2	町会のイベント・くるみCaféへの参加をしており、今後も地域の方々、子ども達とのふれあいを継続的にもてる様にしていく必要がある。	イベント・交流する機会がある際には参加をし、地域との繋がりを大切にしていく。	町会のイベントの継続的参加と、運営推進会議等で新たな活動があるか聞き、積極的に参加していく。	1年
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」にのっとり、目標を目指して取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()